



●「マダムと女房」©1931松竹

叙情派の巨匠—映画監督 五所平之助

2024 2月24日(土) — 3月22日(金)
神保町シアター



五所平之助 ごしょ・へいのすけ——1902年、東京・神田生まれ。慶應義塾商工学校を卒業後、1923年に松竹キネマ蒲田撮影所に入社。島津保次郎監督の助監督として修業を積み、25年『南島の春』で監督デビュー。早くから頭角を現し、松竹蒲田の看板だった小市民映画を数多く手掛け、売り出し中の田中絹代とのコンビでヒット作にも恵まれた。31年、日本初の本格的なトーキー作品『マダムと女房』の監督を任せられ、映画史にもその名を刻んだ。

41年、松竹を退社し、大映を経て、戦後は東宝と契約したが、東宝争議への参加で退社。51年、仲間と共に独立プロ「スタジオ・エイト・プロ」を結成。53年に同プロで製作した『煙突の見える場所』が、ベルリン国際映画祭国際平和賞を受賞。また、56年から映画製作に乗り出した歌舞伎座では、第1作目『或る夜ふたたび』から6作を手掛け、中でも57年の『黄色いからす』はゴールデングローブ賞外国語映画賞を受賞。いずれも市井の人々の日常を描いた地味な作品なが

ら、その確かな演出は国内外から高く評価された。68年『女と味噌汁』が最後の劇場公開作品となったが、以後も、人形劇映画『明治はるあき』(68年)、遺作となった記録映画『わが街三島 1977年の証言』(77年)を撮りあげた。66年紫綬褒章、72年勲四等旭日小綬章を受章。81年、79歳で死去。



「雲がちぎれる時」撮影スタッフ
五所平之助監督(左)、
倍賞千恵子(中)、有馬稲子(右)

2024年2月24日(土)~3月22日(金)・27日間

各回完全入替制

土日祝	11:00	1:15	3:30	5:45
平日	12:00	2:15	4:30	7:15

2月24日(土)~3月1日(金) ◆デジタル上映

終映時刻↓

2月24日[土]	1*マダムと女房	2*わかれ雲◆	3*鶏はふたゝび鳴く◆	4*かあちゃんと11人の子ども(6:00)	7:46
2月25日[日]	2*わかれ雲◆	3*鶏はふたゝび鳴く◆	4*かあちゃんと11人の子ども(3:40)	1*マダムと女房(5:50)	6:47
2月26日[月]	3*鶏はふたゝび鳴く◆	4*かあちゃんと11人の子ども(2:25)	1*マダムと女房(4:40)	2*わかれ雲◆	8:56
2月27日[火]	4*かあちゃんと11人の子ども	1*マダムと女房	2*わかれ雲◆	3*鶏はふたゝび鳴く◆	9:13
2月28日[水]	1*マダムと女房	2*わかれ雲◆	3*鶏はふたゝび鳴く◆	4*かあちゃんと11人の子ども	9:01
2月29日[木]	2*わかれ雲◆	3*鶏はふたゝび鳴く◆	4*かあちゃんと11人の子ども(4:40)	1*マダムと女房	8:12
3月 1日[金]	3*鶏はふたゝび鳴く◆	4*かあちゃんと11人の子ども(2:25)	1*マダムと女房(4:40)	2*わかれ雲◆	8:56

3月2日(土)~3月8日(金)

3月 2日[土]	5*花籠の歌	6*わが愛	7*白い牙	8*雲がちぎれる時	7:19
3月 3日[日]	6*わが愛	7*白い牙	8*雲がちぎれる時	5*花籠の歌	6:54
3月 4日[月]	7*白い牙	8*雲がちぎれる時	5*花籠の歌	6*わが愛	8:53
3月 5日[火]	8*雲がちぎれる時	5*花籠の歌	6*わが愛	7*白い牙	8:59
3月 6日[水]	5*花籠の歌	6*わが愛	7*白い牙	8*雲がちぎれる時	8:49
3月 7日[木]	6*わが愛	7*白い牙	8*雲がちぎれる時	5*花籠の歌	8:24
3月 8日[金]	7*白い牙	8*雲がちぎれる時	5*花籠の歌	6*わが愛	8:53

3月9日(土)~3月15日(金) ◆デジタル上映

3月 9日[土]	9*大阪の宿◆	10*愛と死の谷間◆(1:30)	11*からたち日記(4:00)	12*愛情の系譜(6:30)	8:16
3月10日[日]	10*愛と死の谷間◆	11*からたち日記(1:30)	12*愛情の系譜(4:00)	9*大阪の宿◆(6:15)	8:17
3月11日[月]	12*愛情の系譜	9*大阪の宿◆	10*愛と死の谷間◆(4:45)	11*からたち日記	9:14
3月12日[火]	(設備点検のため休館します)				
3月13日[水]	9*大阪の宿◆	10*愛と死の谷間◆(2:30)	11*からたち日記(5:00)	12*愛情の系譜(7:30)	9:16
3月14日[木]	10*愛と死の谷間◆	11*からたち日記(2:25)	12*愛情の系譜(5:00)	9*大阪の宿◆	9:17
3月15日[金]	11*からたち日記	12*愛情の系譜(2:25)	9*大阪の宿◆(4:40)	10*愛と死の谷間◆	9:12

3月16日(土)~3月22日(金) ◆デジタル上映

3月16日[土]	13*煙突の見える場所◆	14*黄色いからす	15*100万人の娘たち	16*恐山の女	7:23
3月17日[日]	14*黄色いからす	15*100万人の娘たち	16*恐山の女	13*煙突の見える場所◆	7:33
3月18日[月]	15*100万人の娘たち	16*恐山の女	13*煙突の見える場所◆	14*黄色いからす	8:58
3月19日[火]	16*恐山の女	13*煙突の見える場所◆	14*黄色いからす	15*100万人の娘たち	8:51
3月20日[祝]	13*煙突の見える場所◆	14*黄色いからす	15*100万人の娘たち	16*恐山の女	7:23
3月21日[木]	14*黄色いからす	15*100万人の娘たち	16*恐山の女	13*煙突の見える場所◆	9:03
3月22日[金]	15*100万人の娘たち	16*恐山の女	13*煙突の見える場所◆	14*黄色いからす	8:58

★作品名末尾の()内の数字は上映開始時刻です。()の無いものは日程表上の通常時刻の上映開始となります。
★一部の作品に画・音の不良箇所がありますことを予めお詫び申し上げます。

入場料金(当日券のみ)
一般¥1300/シニア¥1100/学生¥900
★水曜サービスマン 一般/シニア¥1000
●自由席定員制(99席 ※変更になる場合があります)
●整理番号制 ●各回完全入替制
有料入場5回で1回無料の、
お得なポイントカードサービス実施中!

●1階チケット売り場にて整理番号
付き入場券を販売いたします。(当日
分のみ。販売開始:土日祝10:00、平
日11:00) ●開場は各回10分前を予
定しております。●開映後の入場不
可●混雑状況によってはご入場いた
だけない場合がございます。●販売
後の変更、取り消しはできません。

小学館グループ
神保町シアター
地下鉄神保町駅A7出口3分/JR御茶ノ水駅御茶ノ水橋出口8分
tel.03-5281-5132 http://jinbocho-theater.jp/





1931松竹
原作・脚本-北村小松
マダムと女房
2/24土-11:00
2/25日-5:50
2/26月-4:40
2/27火-2:15
2/28水-12:00
2/29木-7:15
3/1金-4:40

◆静かな環境を求め郊外に引越した劇作家は、隣家の騒がしさに悩まされる。国産初の本格的トーキー作品で、陽気なジャズが愉しい家庭喜劇。サイレント期に活躍した伊達里子や井上雪子のモダンな美貌も見逃せない。



2 わかれ雲
2/24土-1:15
2/25日-11:00
2/26月-7:15
2/27火-4:30
2/28水-2:15
2/29木-12:00
3/1金-7:15

◆信州の旅先で急病になった女子大生は、旅館の仲居や医師に看病されるうち、閉ざした心を解きほぐしていく。五所が中心になって設立したスタジオ・エイト・プロの第一回作品。戦前のスター・川崎が仲居役を好演する。



3 鶏はふたゝび鳴く
2/24土-3:30
2/25日-1:15
2/26月-12:00
2/27火-7:15
2/28水-4:30
2/29木-2:15
3/1金-12:00

◆かつて天然ガスで栄えた田舎町。新たな油田の発見を夢見ながら試掘井で働く労働者たちは、思わぬ奇跡に遭遇する。市井の人々への温かな眼差しが光る五所演出も、絶品の寓話的な物語。曲者役者たちの魅力的。



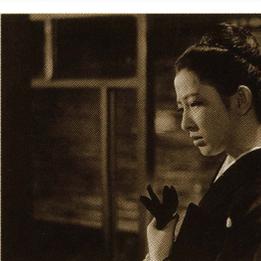
4 かあちゃんと11人の子ども
2/24土-6:00
2/25日-3:40
2/26月-2:25
2/27火-12:00
2/28水-7:15
2/29木-4:40
3/1金-2:25

◆大正後期に伊豆の農家に若くして嫁いだ女性とその家族の姿を、実話を基に描いた感動篇。夫の出征中も家業と子育てに励み一家を守り抜いた逞しい母を左が熱演。11人の兄妹に扮した意外な顔ぶれも楽しい。



1937松竹
原作-岩崎文隆「豚と看板娘」
花籠の歌
3/2土-11:00
3/3日-5:45
3/4月-4:30
3/5火-2:15
3/6水-12:00
3/7木-7:15
3/8金-4:30

◆銀座のとんかつ屋を舞台に、店に集まる一癖も二癖もある客たちと、看板娘をめぐる恋模様を描いた庶民派喜劇の秀作。戦前の銀座の風景や、笠・佐野らの名優たちの学ラン姿、妹役の若い高峰など見所盛りだくさん。



1960松竹
原作-井上靖「通夜の客」
わが愛
3/2土-1:15
3/3日-11:00
3/4月-7:15
3/5火-4:30
3/6水-2:15
3/7木-12:00
3/8金-7:15

◆本作と「白い牙」『狼銃』と、五所が連続して手掛けた井上文学三部作の第一作。急死した男の通夜に現れたひとりの女の正体とは――人知れず愛を捧げた日陰の女の情念を有馬が熱演し、代表作の一本とした。



1960松竹
原作-井上靖
白い牙
3/2土-3:30
3/3日-1:15
3/4月-12:00
3/5火-7:15
3/6水-4:30
3/7木-2:15
3/8金-12:00

◆神戸・六甲山の洋館を舞台に、あるブルジョア家族の崩壊を描く。奔放な母が家を出て、横暴な父は愛人を同居させた。荒み切った家庭に振り回された娘は、一家の暴君を佐分利が貫禄たっぷり演じる家族群像劇。



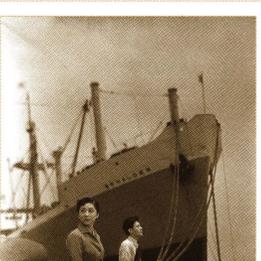
1961松竹
原作-田宮彦彦「赤い椿の花」
雲がちぎれる時
3/2土-5:45
3/3日-3:30
3/4月-2:15
3/5火-12:00
3/6水-7:15
3/7木-4:30
3/8金-2:15

◆バス運転手の三崎(佐田)は、かつて愛した市枝(有馬)を忘れられぬまま、別の女性との結婚を決めた。一方、市枝は人知れず苦労を重ねる。三崎の婚約者を演じた倍賞の出世作にもなった芸文メロドラマ。



1954松竹
原作-水上瀧太郎
大阪の宿
3/9土-11:00
3/10日-6:15
3/11月-2:15
3/13水-12:00
3/14木-7:15
3/15金-4:40

◆大阪の寂れた旅館を舞台に、東京から左遷されてきた会社員(佐野)と、訳ありだが気のいい女中たちが織り成す人間模様を情緒豊かに描いた、隠れた名作。乙羽や左ら個性派の女優陣に圧倒される佐野が愛らしい。



1954松竹
原作-脚本-椎名麟三
愛と死の谷間
3/9土-1:30
3/10日-11:00
3/11月-4:45
3/13水-2:30
3/14木-12:00
3/15金-7:15

◆苦学して医者になった愛子(津島)は、勤め先の診療所に急病人を担ぎ込んだ男との出会いに運命を感じるが、その男の正体を知り――。五所唯一の日常生活作品で、宇野が珍しく野心家の嫌な男を演じた苦々しいメロドラマ。



1959松竹
原作-増田小夜「芸者」
からたち日記
3/9土-4:00
3/10日-1:30
3/11月-7:15
3/13水-5:00
3/14木-2:25
3/15金-12:00

◆実在した芸者の自伝を原作に、叶わぬ恋の儂さを歌った島倉千代子の代表曲を重ねあわせて映画化。寒村に生まれ、女中、芸者、妾として戦中から戦後を逞しく生きた女・つる(高千穂)の半生を抒情的に綴る。



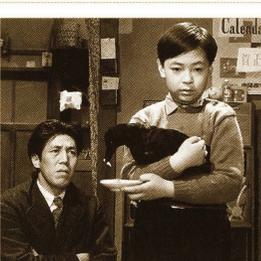
1961松竹
原作-円地文子
愛情の系譜
3/9土-6:30
3/10日-4:00
3/11月-12:00
3/13水-7:30
3/14木-5:00
3/15金-2:25

◆米国留学から戻り社会福祉活動に打ち込む達也(岡田)は、ひょんなことから父母の壮絶な過去を知り、絶望する。家族や恋人の裏切り、に翻弄されるヒロインを、美しい盛り岡田が演じた群像愛憎劇。



1953松竹
原作-椎名麟三「無邪気な人々」
煙突の見える場所
3/16土-11:00
3/17日-5:45
3/18月-4:30
3/19火-2:15
3/20水-11:00
3/21木-7:15
3/22金-4:30

◆巨大な4本のお化け煙突が見下ろす下町を舞台に、赤ん坊を押しつけられた夫婦を軸に描かれる人情喜劇。戦後の混乱期に生きる庶民の姿が目につく、五所の代表作。ベルリン国際映画祭で国際平和賞を受賞した。



1957松竹
原作-脚本-椎名麟三
黄色いからす
3/16土-1:15
3/17日-11:00
3/18月-7:15
3/19火-4:30
3/20水-1:15
3/21木-12:00
3/22金-7:15

◆一人で暮らす母子のもとに、復讐した父が戻り、息子は孤独感を深める。戦後を生きた家族を細やかに綴り、ゴールデンロープ賞外国語映画賞に輝いた感動作。名優競演の中、隣のおばさん役の田中の優しさが心に残る。



1963松竹
100万人の娘たち
3/16土-3:30
3/17日-1:15
3/18月-12:00
3/19火-7:15
3/20水-3:30
3/21木-2:15
3/22金-12:00

◆新婚旅行チームに沸く九州・宮崎を舞台に、バス会社とのタイアップで製作された、女性活躍時代の到来を告げる女性映画。評判の美人姉妹・バスガイドが、思わぬ運命に翻弄されるながらも健気に生きる姿を描く。



1965松竹
原作-小川元「霊場の女」
恐山の女
3/16土-5:45
3/17日-3:30
3/18月-2:15
3/19火-12:00
3/20水-5:45
3/21木-4:30
3/22金-2:15

◆東北の漁村の娘は、貧困のため娼婦となるが、関係した男が次々と死ぬ不吉な女と噂されて…。昔ながら運命に翻弄される女の哀しい一生を描いた、五所晩年の力作。非業の女を演じた吉村の熱演が印象深い。